

認定申請書(次年度予定報告書類)

2025年8月1日版

教育機関名	
開講分野	プルダウンで分野を選択してください

※開講分野は基本情報として記載いただくものであり、変更はできません

施設情報		
	教育機関名	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> 変更のある項目のみ記載してください。 </div>
	郵便番号	
	住所	
	電話番号	
教育機関管理者 情報(※在会会員のみ可)		
	会員番号	
	所属先・所属部署	
	役職	
	氏名	
	メールアドレス	
会計責任者 情報		
	会員番号(会員の場合)	
	所属先・所属部署	
	役職	
	氏名	

※会計責任者は教育機関管理者とは異なる方を選任してください。

【様式1】開講予定と対象者等

■開講予定

予定で構いませんので、開催日を記載してください。
提出後に日時変更は可能です。

	必須科目	選択科目
対面の開催日		2026年11月14日・15日
オンライン(生中継)の開催日		後
オンライン(録画)の開催日	前	※必須科目の後に選択科目を受講できるよう計画してください
オンライン(オンデマンド)の開催期間	2026年7月1日～10月31日	

※オンライン形式とは以下が該当する

- 1) 生中継: 当該日・当該時間のみ放映
- 2) 録画: 事前撮影、当該日・当該時間のみ放映
- 3) オンデマンド: 事前撮影、一定期間の放映(開講期間は10日以上とする)

※必須科目の後に選択科目を受講できるよう計画してください

■対象者

募集定員	30
------	----

■最少催行人数

設けるか否か	設ける
設ける場合の人数	

【様式2】教育施設・教材・教育機器

(1)実施施設について

変更のある場合のみ記載してください。

実施施設は開講機関の所有施設であるか。	プルダウンで選択してください
---------------------	----------------

(2)施設・設備について

■(1)で「全講義を所有施設で実施する」を選択した場合

	数	収容人数	備考
講義室			
演習室			
その他			

※講義室・演習室の収容人数が募集定員に関係スタッフ数を合わせた数以上であること

■(1)で「全講義を所有施設以外(外部借用等)で実施する」を選択した場合

	数	収容人数	実施施設名
講義室			
演習室			
その他			

※講義室・演習室の収容人数が募集定員に関係スタッフ数を合わせた数以上であること

■(1)で「講義によって所有施設と所有施設外を使い分ける」を選択した場合

	数	収容人数	実施施設名	所有施設か否か
講義室				
演習室				
その他				

※講義室・演習室の収容人数が募集定員に関係スタッフ数を合わせた数以上であること

(3)教材・教育機器について

名称	個数	備考(使用用途を含む)

※オンライン研修を実施する場合はインターネット環境、PC、マイク、カメラなどを記載すること

※資産として残るもの(PC等)は使用用途を記載すること

【様式3】収支

収入

科目名	金額	内訳
【必須記載項目】 ※該当する収入がない場合「0」と記載		
受講費	900,000	受講費単価30000円×募集定員30名
教材費	0	
【自由記載項目】		
	0	
	0	
合計金額	900,000	

金額欄は1名分ではなく、募集定員(※様式1の募集定員数と同数)の合計額です。内訳欄は例に倣い、必ず内訳を記載してください。

合計金額は自動計算になっています。

支出

科目名	金額	内訳
【必須記載項目】 ※該当する支出がない場合「0」と記載		
人件費(講師)※源泉税を含む金額を記載してください	620,000	講師:30,000円×20人、演習補助講師:10,000円×2人
人件費(講師以外)※源泉税を含む金額を記載してください	90,000	6,000円×3人×5日
旅費・交通費	43,000	5,000円×5人(対面講師分)、1,000円×3人×6日(スタッフ分)
教材作成・購入費(講師謝金除く)	0	
消耗什器備品費	100,000	PC、消耗品購入
通信運搬費	20,000	Zoom契約費
賃借費	0	
印刷製本費	0	
【自由記載項目】		
	0	
	0	
合計金額	873,000	

予算計上を行う項目は、例に倣い金額内訳や主な支出用途を記載してください。

合計金額は自動計算になっています。

【様式4】講師リスト

必須/選択科目	番号	科目名 (開講分野を選択すると自動反映)	開講概要			視聴確認方法 (その他の方法 の場合)	講師					登録理学療法士 登録番号	認定理学療法士 取得分野	認定理学療法士 登録番号	専門理学療法士 取得分野	専門理学療法士 登録番号		
			開講有無	産学/実技	研修形式		オンライン形式 時の視聴確認 方法	職種名 (科目により理学療法 士の指定あり)	会員番号 (PTの場合)	氏名 (漢字)	所属						職位	
●必須科目講師 (15コマまで)	1	正常な構造	必須開講	産学	オンライン(生 中継)	3画面確認	医師		医師 一部	△△病院	部長							
	2	医学的診断と治療介入	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	医師		「理学療法士」と自動表示 される科目は理学療法士の み担当可能(他職種不可)	△△病院	部長							
	3	理学療法介入の意義と理学療法士の役割	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	理学 太郎	□□クリニック		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	4	疾患によって生じる障害とその評価および予後予測	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	高橋 三郎	◎□医療センター	科長	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
	5	脳卒中後の運動機能障害に対する理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	理学 太郎	□□クリニック		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	6	脳卒中後の高次脳機能障害に対する理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	高橋 三郎	◎□医療センター	科長	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
	7	脳卒中後の活動・参加制限に対する理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	高橋 三郎	◎□医療センター	科長	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
	8	早期離床と合併症予防のための急性期理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	山田 一郎	◎◎大学病院	科長	T22-xxxxxxx						
	9	機能回復と日常生活活動自立に向けた回復期理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	田中 花江	△△病院		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	10	在宅生活の充実と社会参加促進のための生活期理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	田中 花江	△△病院		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	11	終末期における理学療法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	理学 太郎	□□クリニック		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	12	自立支援や疾病管理の補助具・機器とその活用	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	渡辺 太郎	△△病院		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	13	発症予防、重症化予防、再発予防	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	渡辺 太郎	△△病院		T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	14	患者・家族教育の意義とその方法	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	佐藤 花子	☆☆大学	教授	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
	15	社会資源の活用	必須開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	佐藤 花子	☆☆大学	教授	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
●選択科目講師 (5コマ以上を選択して開講)	1	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編1)	開講	産学	オンライン(生 中継)	3画面確認	医師		医師 一部	△△病院	部長							
	2	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編2)	未開講	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx										
	3	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編3)	開講	実技	対面		理学療法士	xxxxxxx	中村 一郎	△△病院	主任	T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	4	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編4)	開講	実技	対面		理学療法士	xxxxxxx	中村 一郎	△△病院	主任	T22-xxxxxxx	脳卒中	Nxx-xxxxxxx				
	5	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編5)	開講	実技	対面		理学療法士	xxxxxxx	東京 二郎	◎◎大学	准教授	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
	6	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編6)	開講有無を 選択	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士											
	7	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編7)	開講有無を 選択	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士	xxxxxxx	東京 二郎	◎◎大学	准教授	T22-xxxxxxx			神経理学療法	Sxx-xxxxxxx		
	8	疾病・障害特異的理学療法の実践(技術編8)	開講有無を 選択	選択して ください	選択して ください	選択して ください	理学療法士											
●選択科目補助講師		選択科目に補助講師がいる場合は、担当科目名を選択してください。																
選択3	演習補助講師						理学療法士	xxxxxxx	実技 太郎			T22-xxxxxxx						
選択4	演習補助講師						理学療法士	xxxxxxx	演習 花子			T22-xxxxxxx						
選択5	演習補助講師						理学療法士											
選択6	演習補助講師						理学療法士											

【様式4】講師リスト

開講中

※[注]必ず最初に分野名を選択し、科目番号を反映させてから入力を進めてください

分野名を選択してください

※上の分野名を選択して職種名に「理学療法士」と反映された科目の講師は「理学療法士のみ担当可」です。自動反映された記載を変更しないでください。 ※空欄で表示された科目へのみ「理学療法士」「医師」「看護師」など職種を直接入力してください。

黄色セルはプルダウンからの選択式です。(選択すると色が消えます)

「理学療法士」と自動表示される科目は理学療法士のみ担当可能(他職種不可)

該当領域の認定理学療法士もしくは関連する専門理学療法士を持っていない方は、様式5の提出が必要です。(他職種も含む)

選択科目は、開講する科目は「開講」、開講しない科目は「未開講」を選択してください。(どちらかを必ず選択)

未開講の科目は、「産学/実技」研修形式「視聴確認方法」欄の選択は不要です(グレーアウトします)

※選択科目に補助講師がいる場合は、B列に担当科目を記載してください。

【様式5】 ※講師が開講分野の認定理学療法士・専門理学療法士を有している場合のみ提出不要

科目担当講師の経歴									
会員番号(理学療法士の場合)		xxxxxxx (数字8桁)							
ふりがな	やまだ いちろう			生年月日					
氏名	山田 一郎			1966	年	1	月	1	日
所属施設	郵便番号	〒106-0032							
	住所	東京都港区六本木7-11-10							
	施設名・部署名	◎◎大学病院 リハビリテーション科							
担当科目番号・名	必須科目8	早期離床と合併症予防のための急性期理学療法							
学歴(取得免許、学位)									
(西暦) 年月	事 項								
1987年 3月	〇〇大学リハビリテーション学部理学療法学科卒業 学士(理学療法)取得								
1987年 4月	理学療法士免許取得 登録番号第〇〇〇〇号								
2005年 4月	〇〇大学大学院医療科学研究科医療科学専攻博士課程前期課程 入学								
2007年 3月	〇〇大学大学院医療科学研究科医療科学専攻博士課程前期課程 卒業 修士(理学療法)取得								
国会認定資格取得年月日									
	登録理学療法士			分野			取得年月		
				西暦			年	月	日
	認定理学療法士			西暦			年	月	日
	専門理学療法士			西暦			年	月	日
職 歴									
(西暦) 年月	事 項								
1987年 4月	〇〇リハビリテーションセンター リハビリテーション科(1996年3月まで)								
1996年 4月	△△病院 リハビリテーション科(2018年3月まで)								
2018年 4月	□□大学病院 リハビリテーション科								
	現在に至る								
実績・業績(条件①~③のいずれかを必ず有する) ※必ず記載例を参照の上、当該分野および担当科目における 実績や業績を具体的に記載すること									
【条件①】当該分野および科目において理学療法実践力を有する者：職務上の実績に関する具体的事項									
(西暦) 年月	事 項								
2015年 4月	△△病院 脳神経外科病棟(急性期の医療機能を有する病床)で勤務(2018年3月まで)								
2018年 4月	□□大学病院 急性期脳卒中患者を年間約30症例担当実績あり(2023年7月まで)								
2023年 8月	◎◎病院 脳外科術後の急性期患者の担当実績は累計で55症例(現在に至る)								
年 月									
年 月									
【条件②】当該分野および科目において教育上の能力を有する者：教育上の実績に関する具体的事項									
(西暦) 年月	事 項								
2017年 9月	〇〇県理学療法学会大会講師 テーマ「脳卒中の急性期理学療法」								
2022年 8月	理学療法士作業療法士臨床実習指導者講習会 修了								
2023年 1月	〇〇県理学療法士会主催研修会講師 テーマ「急性期理学療法の実践」								
【条件③】当該分野および科目において学術業績を有する者：学術業績に関する具体的事項									
(西暦) 年月	事 項								
(著書)	山田一郎、急性期理学療法、〇〇出版								
2019年 12月									
年 月									
(学術論文)	山田一郎、脳卒中患者への早期離床の効果について、理学療法学会〇〇巻p〇〇-〇〇								
2023年 3月									
年 月									
(学会発表)	山田一郎、脳卒中急性期の早期リハビリテーション、第〇〇回〇〇県理学療法学会大会								
2021年 10月									
年 月									
学会及び社会における活動等									
(西暦) 年月	事 項								
2018年 4月	日本神経理学療法学会(現在に至る)								
年 月									
年 月									
賞 罰									
(西暦) 年月	事 項								
年 月	なし								
年 月									
年 月									

【提出要否】様式5の提出が不要なのは、講師が開講分野の認定理学療法士・専門理学療法士を有している場合のみです。以下のような講師は要提出(審査対象)です。
・登録理学療法士のみ取得者
・認定・専門理学療法士取得済だが、開講分野と異なる分野の取得者
・他職種
※科目変更の場合も同様

【担当科目番号・名】番号は(例:必須科目8)はプルダウンで選択可能です。番号に該当する科目名は様式4を参考に記載してください。演習補助講師であっても担当科目番号・名は記載してください。

【国会認定資格】理学療法士の場合、登録理学療法士・認定理学療法士・専門理学療法士の取得年月を記載してください。

【職歴】年月日順にすべてを記入してください。在职期間が明確になるように記入してください。なお、現職については、例にならって「現在に至る」につながるように記載してください。

★重要★ 該当分野および担当科目における実績や業績を具体的に記載してください。本例は担当科目が脳卒中分野における「早期離床と合併症予防のための急性期理学療法」であるため、例示のような内容です。例えば、職務上の実績において、脳卒中患者を担当したという記載のみでは担当科目における実績や業績には該当しません。

【職務上の実績】年月日順(過去→現在)に簡潔に記入してください。担当科目に関連した職務内容、従事期間が分かるように具体的に記載してください。

【教育上の実績】年月日順(過去→現在)に簡潔に記入してください。担当科目に関連した養成校教育歴、研修会での講師経験などを具体的に記載してください。

【学術業績】担当科目に関連した主要な3つ程度の学術業績を具体的に記載してください。自身が執筆した著書・学術論文・学会発表(筆頭著者、筆頭演者であること)に分けて記載してください。

該当する内容がない場合は「なし」と記載してください。

※実績がない項目は、空欄ではなく「なし」と記載すること。
※不足な場合は、行数を増やしてよいが、当該科目に関連する業績を2ページ以内、複数科目を担当する場合には担当科目すべての関連業績を含め4ページ以内にまとめること。